

PM5D V1.05 追補マニュアル

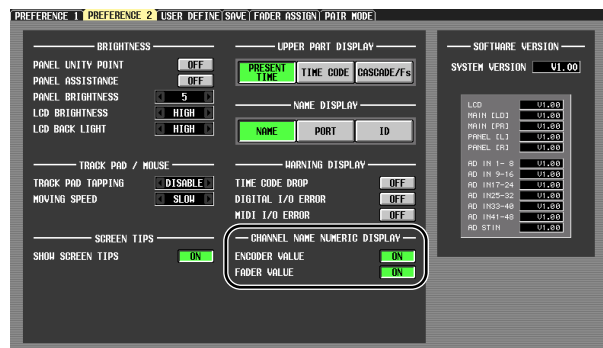
PM5D システムソフトウェア V1.05 では、V1.04 から以下の変更と補足がございます。

ENCODER [ON] キーでファンタム電源 (+48V) をオン / オフ

PREFERENCE 1 画面に「USE ENCODER-ON AS +48V」オプションが追加されました。このオプションをオンにすると、エンコーダーモードに HA(ヘッドアンプの入力感度)が選択されている場合、エンコーダーの上にある ENCODER [ON] キーでファンタム電源 (+48V) をオン / オフできるようになります。

ネームディスプレイのパラメーター値表示をオン / オフ

PREFERENCE 2 画面に「CHANNEL NAME NUMERIC DISPLAY」欄が追加されました。V1.04 以前では、各チャンネルのフェーダーやエンコーダー(パン設定)を操作すると、ネームディスプレイがそのパラメーター値の表示に切り替わりました。V1.05 では、「ENCODER VALUE」(エンコーダーの値)および「FADER VALUE」(フェーダーの値)のオプションをオフにすると、それぞれのパラメーター値表示に切り替わらなくなります。

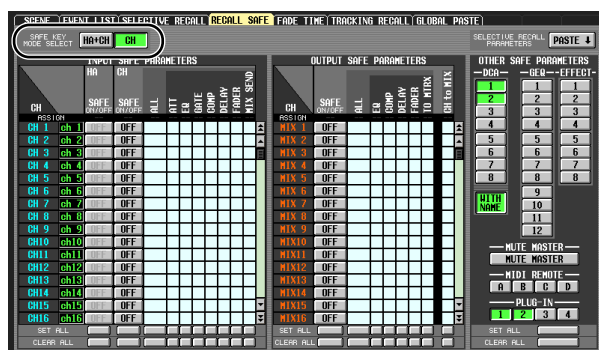


パネル操作でのモニターソース選択

パネル上でモニターソースを選択する場合、V1.04 以前では [2TR A1] ~ [2TR D3]、[DEFINE] のどれか一つと [STEREO A]/[STEREO B] (LCR 含む) のどれか一つを同時に選択できました(最大2つ)。V1.05 では、択一選択時に素早く切り替えられるように、各キーをオンにすると他のキーはオフになるようになりました。V1.04 以前と同様に2つを同時に選択するためには、パネル上の該当するキーを同時に押す、または MONITOR 画面で操作します。

リコールセーフのオン / オフに HA も連動

RECALL SAFE 画面に SAFE KEY MODE SELECT セクションが追加されました。HA+CH ボタンをオンにすると、パネル上の [RECALL SAFE] キーや CH VIEW 画面 (INPUT VIEW ファンクション) の RECALL SAFE ボタンの操作でリコールセーフをオン / オフしたときに、該当するチャンネルにパッチされている HA のリコールセーフも連動してオン / オフするようになります。CH ボタンがオンのときは、従来どおり連動しません。



DCA グループ名のリコールセーフ / セレクティブリコールのオン / オフ

RECALL SAFE 画面と SELECTIVE RECALL 画面の DCA 欄に WITH NAME ボタンが追加され、DCA グループのリコールセーフ / セレクティブリコールの対象から DCA グループ名だけを外せるようになりました。WITH NAME ボタンがオンのときは、オンになっている DCA グループの DCA グループ名は従来どおりリコールセーフ / セレクティブリコールの対象になります。WITH NAME ボタンがオフのときは、DCA グループ名はリコールセーフ / セレクティブリコールの対象から外れます。

リコールセーフ / セレクティブリコールに PLUG-IN パラメーター追加

RECALL SAFE 画面と SELECTIVE RECALL 画面に PLUG-IN パラメーターが追加されました。これは、今後発売されるプラグインカード (Waves 社の Y96K など) に対応するためのものです。

シーンリコール時に MIDI EVENT などの情報も引き継ぎ

シーンに含まれる MIDI EVENT、GPI OUT CONTROL、REMOTE TRANSPORT の情報が、シーンリコール時に引き継がれるようになりました。したがって、リコールしたシーンを別のシーンにストアすると、リコール時のこれらの情報がそのままストアされます。

DME シリーズのモニターソース選択と EXTERNAL CUE のオン / オフ

DME CONTROL 画面に MONITOR ボタンとモニターソース選択ボタン (M) をクリックすると、MONITOR POINT SELECT ウィンドウが表示されて、DME シリーズのモニターソースを選択できます。MONITOR ボタンをオンにすると、ディスプレイ上部の EXTERNAL CUE インジケーターがオンになり、DME シリーズのモニター信号を PM5D の CUE バスに送り出します。



Note

MONITOR ボタンをオンにする場合は、あらかじめ DME シリーズ側のモニター出力と PM5D 側のモニター入力で同じポートを選択しておいてください。DME シリーズ側のモニター出力は、DME Designer の [Tools] メニュー → [Monitor] を選択すると表示される [Monitor Out] ダイアログボックスで設定します。PM5D 側のモニター入力は、DME CONTROL 画面の SETUP の MONITOR PORT で設定します。

バルクダンプで扱うデータタイプの追加

バルクダンプで扱うデータタイプに以下が追加されました。

Data name (D0)	Data Number (D1,2)	tx/rx	Function
'K'	512 (Current Data)	tx/rx	Surround Setting & Request
'V'	512- (Current Data)	tx/rx	User Defined Keys & Request
'L'	512- (Current Data)	tx/rx	MIDI Remote & Request
'U'	512- (Current Data)	tx/rx	Fader Mode & Request

SETUP データの互換性

システムソフトウェア V1.05 以降で作成した SETUP データをシステムソフトウェア V1.04 より前のシステムにロードすることはできません。ただし、V1.04 より前のシステムで作成した SETUP データは、V1.05 以降のシステムにロードできます。

システム起動直後のシーン / ライブラリーの動作について補足

PM5D は、システム起動後に数分程度かけて、シーン / ライブラリーのデータを内部メモリー間で転送しています (転送時間はデータ量によって異なります)。したがって、この期間には以下の制限があります。

- ・ GLOBAL PASTE 画面の PASTE ボタンは実行できません。
- ・ シーンメモリーの UNDO 機能は実行できません。
- ・ シーンリコールに若干時間がかかります。